

## 連載タイトル 「レモン社長の東京人間旅記」

### 第1話 女優「富司純子」さんと尾道

初めまして。尾道出身東京在住の池永と申します。尾道新聞遅ればせながらおめでとうございます。日比崎中学校出身、実家は身体に良い食材卸の頑固屋有限会社を経営しております。私は上京して23年目。ざっくり自己紹介しますと元々ジャングルズというバンドでデビューした事がありますが喉の病気で音楽を断念。その後パラリンピックアスリート谷（佐藤）真海との出会いで共にNPO法人を立ち上げてパラリンピック選手応援イベントや壮行会、ヤクルト球団コラボの始球式、渋谷ごみ拾いなど様々な活動しながら、徐々に社会に進出。稼業を手伝いながら2013年に瀬戸田のレモン（大隅農園）に魅せられてレモン事業を立ち上げ、やっているうちに国産レモンの需要が増えていき、現在はレモンをメイン食材として会社も設立致しました。尾道ではプラスチック・オノ☆ミチバンドというバンド活動しております。自身の紹介はこのくらいとして、有り難い事に山陽日日時代から大変お世話になっている尾道新聞の幾野さんより連載のお話を頂きました。私はまだ連載するほどの人物ではございませんが、東京におりますと素敵が方との出会いが沢山あります。私だからこそ見える景色があるような気がしますので、不定期ではありますがそんな人間模様をお伝え出来たらと思います。

タイトルを何故人間旅記にしたかと申しますと、たいした意味はございません。記念すべき第一回目は広島ブランドショップ tau でがんこ屋が開催するがんこ屋市場に毎回應援下さる方のお話。レモンの時期にだけ行われ、もう13回目になる私主催の尾道物産イベントは毎回かなり盛り上がります。Tauでも結構有名になってきております。私の母親がイベントの顔役をやっていますが、すでに名物で母ファンも多いです。著名人の友人や様々な方が来てくださる中で、一際華やかな方が毎回應援に来て下さいます。日本を代表する女優の富司純子さんです。(tau 写真右。真ん中は東京ドームスポーツの柴田社長)尾道の皆さんなら、なぜこの繋がりがあるかはピンと来る方が多いのではないのでしょうか。NHK朝ドラのてっぱんで出会いました。まずは、てっぱんの欽兄役の遠藤要君が彼のデビュー前からの友達で撮影中ばったり尾道で会ったという所から始まります。

尾道が舞台で友人が準主役という事で初めて朝ドラというのを見ました。鉄兄役の森田直幸君は今も大事な弟分の一人です。そこで大ファンになってしまったのが、ヒロインあかりのおばあちゃん役の富司純子さん。画面から溢れる器の大きさと、懐の深さにいつの間にか惹かれておりました。奇跡的に好み焼きのむらかみでばったり会って少しお話させて頂いて更にファンになったり、主演組と我が家で一緒にてっぱん見たり、あの時はとても楽しい期間でした。そんな中、突然東日本大震災がやってきました。気仙沼はパラリンピックの谷真海の故郷でもあり、壮行イベントで行った事あるのでいてもたってもいられなく、NPO法人のチームとがんこ屋の尾道ラーメンを持って4月1日に陸前高田、気仙沼に炊き出し支援に行きました。まだ電気が通った日で、高速道路も一般車両は入れなかったくらい酷い時期です。そんな中、東北の人に尾道ラーメンを食べてもらおうと皆さんがこぞって「尾道といえばてっぱんだよね。途中で見られなくなったから続きが見たいわ」という声が沢山ありました。帰ってきて時期的にてっぱんも終了にかかり、富司純子さんにお手紙を書きました。いわゆるファンレターです。ネットで事務所の住所を検索してそこにお手紙を送りました。東北でてっぱんが大人気だった事も書きました。数日後びっくりな事が起きました。なんと、携帯に「富司です」というタイトルのメールが届いておりました。高鳴る鼓動を抑えながら開いてみると「お手紙ありがとうございました。寒かった尾道で

のロケの時の温かい尾道ラーメンが忘れられません。東北の応援、私も参加させて下さい」と応援金 100 万円が振り込まれました。その資金で宮古避難所、福島ビックパレット避難所、猪苗代湖避難所、気仙沼を巡り、沢山の人へ尾道ラーメンと富司さんからのメッセージを届ける事が出来ました。その次の年も同じ金額を寄付頂き、熊本震災の時も私が行く事を伝えるとまたご寄付頂きました。更に熊本益城町での応援イベントではわざわざ駆け付けてくださいました。マスクをかけていてお好み焼きを配っておられましたが、どう見ても普通のオーラではありません。

そのうち騒つき始め、「いや、ここにいるわけないよ」という声も出ていたほど。ある人が「すみません、写真一緒に撮って頂いてよろしいですか？」と声掛けた時に、「いいですよ」とマスクを取った時に歓声が上がりました。そんな富司さんと私の妻と富司さんのお友達と 4 人で九州旅行をし、2泊3日一緒に過ごす事が出来ました。いくら長く居ても緊張が解けない神々しさがありました。車の中で「コーヒーが飲めなかったけど、ケンさんが楽しみ方を教えてくださってね」なんて話してくださったケンさんは、高倉健さんの事でした。その後一緒にお食事行ったり、息子が誕生したときは、お孫さん（寺嶋しのぶさんのご息まほろちゃん）のおさがりを沢山取っておいて下さり、ベッド、おしめ台、山ほどの服を頂いたり、家に招待くださったり大変可愛がって頂いております。

富司純子さんは過去にこだわらず、いつでも凛として、弱きの味方。「カズさんのやってる事は私の心に刺さるのよ」と言ってくださってからずっと水面下で災害や活動の支援頂いている富司さんはまさに女神さまのような方。食べ物と社会貢献活動は、立場や地位を超えて心で繋がれる素晴らしいものだと最近思います。震災の活動をしていなかったら、こんな繋がりはなかったでしょう。東京で成功されている方に会う機会がよくありますが、人に喜ばれる事が大好きな方が多いような気がいたします。そんな中で圧倒的に素敵な方が自分にとっては富司純子さんです。ふるさと尾道が繋いでくれた不思議で素敵なお縁なので第一話で紹介させていただきました。 終わり

## 池永憲彦 プロフィール

1977年3月31日生まれ 尾道市立日比崎中学校卒業生

POPS バンドジャンクルーズでバンド全国コンテストでグランプリ受賞後デビュー。喉の病気で断念後パラリンピック選手谷真海と出会い、パラリンピック啓蒙活動の発起人に。NPO 法人 Happy Japan Project 設立。渋谷早朝ごみ拾い、七生福祉園クリスマスチャリティコンサート、震災支援活動など様々な活動の中心人物。2013年に瀬戸田レモンに目を付けてレモン事業を展開。2018年リモンライフ株式会社設立。